

# 行政とJAが連携した はくいの自然栽培の取組みについて



# 近代農業の仕組み

---



海外から東京を通して田舎へ

化学肥料

合成農薬

エネルギー資源

種

遺伝子組み換え ゲノム編集

誰が儲かるの？

---

# 自然栽培の仕組み

---



田舎にある

太陽

空気

水

土(バクテリア)

種(自家採取)

人

地域資源**100%**で世界最高の食材を！

---

# 自然栽培ってなに？

---

自然栽培とは

肥料、農薬を使わない農業ではない

---

# 自然栽培ってなに？

---

## 自然

人の手が加わらない、もとのままの状態。

## 栽培

(人の手で)植物をうえて育てること。

(三省堂国語辞典)

# 自然栽培ってなに？

---

「自然」 の 「栽培」  
(人の手を加えずに) (植えて育てる)

ではなく、「自然」と「栽培」

自然と人との関係性の中にある

# 自然栽培ってなに？

---



人工物である田畑に、

自然循環系システム  
を再現させること  
によって、

人工物である農作物  
を植えて育てること





# ジャパンブランドとしての自然栽培

---

約7割が中山間地という国土をエネルギーに転換  
例) ため池⇒用水路⇒田畑⇒川⇒海

自然と寄り添う小さな農業の展開  
例) 関係性の改善

**crazy and respect farming**

---

# JＡが行政と連携 自然栽培農家をバックアップ

2015年11月2日 農業振興に関する協定書

## 1. 農産物等の販売支援

道の駅、学校給食、イベント等での利用

集出荷場、加工場プレハブの建設、加工機械の導入



## 2. 栽培支援

自然栽培作付補助28円/m<sup>2</sup>、農機具レンタル(主に水稲用)

自然栽培米全量買い取り(1俵30,000円)

育苗から乾燥調製までの一元管理

2016年8月25日 農業の6次産業化に関する基本合意書

# JAが行政と連携 自然栽培農家をバックアップ

---



ICT技術の積極的活用  
チェーン除草機の手引きからアイガモロボットへ

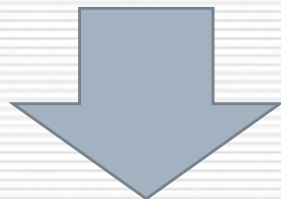
---

# 学校給食

---

2016年11月29日から本格実施  
小学校6校、中学校2校、  
幼稚園保育所10施設  
合計 約1,500人の子どもたちへ

年間 約1.5トンの自然栽培米を提供



自然栽培地元向けPR推進事業

---



# 有機農業とは

---

## IFOAM (IFOAM, 2008)

「有機農業は、土壌、生態系および人々の健康を支える生産システムである。有機農業は、悪影響のある投入物の使用でなく、生態系の諸過程、生物多様性や地域の条件に適応した循環過程に依存している。有機農業は、伝統と革新や科学を結びつけて、共有の環境を向上させ、関わりを有するすべての生命体の質と互いの公正な関係を増進させるものである」

# 有機農業とは

---

## 日本の定義：有機農業の推進に関する法律

有機農業とは、化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業である

異なる二つの有機農業の経営原則

	ローカル志向	市場化志向
理念	健康・安全・環境といった価値観 低投入・内部循環・自然共生 身土不二 食と農の結合 食料自給 地産地消	経済合理性 効率と収益への追及 有機産業・ビジネス
生産形態	多品種少量生産 有畜複合経営 小農家族農業 地域資源の循環利用	作付け分業化 (小品目大量作付け、単作化) 大規模化
流通形態	市場外流通 産直・共同購入方式	市場流通 量販店 流通の広域化 国際化 ブランド化
価格決定	生産者主体価格 お礼制・会費制 生産費および農家の所得補償を第一とする	商業化 高付加価値 市場価格
安全性	生産者と消費者の相互信頼 顔の見える関係	規格基準 認証制度

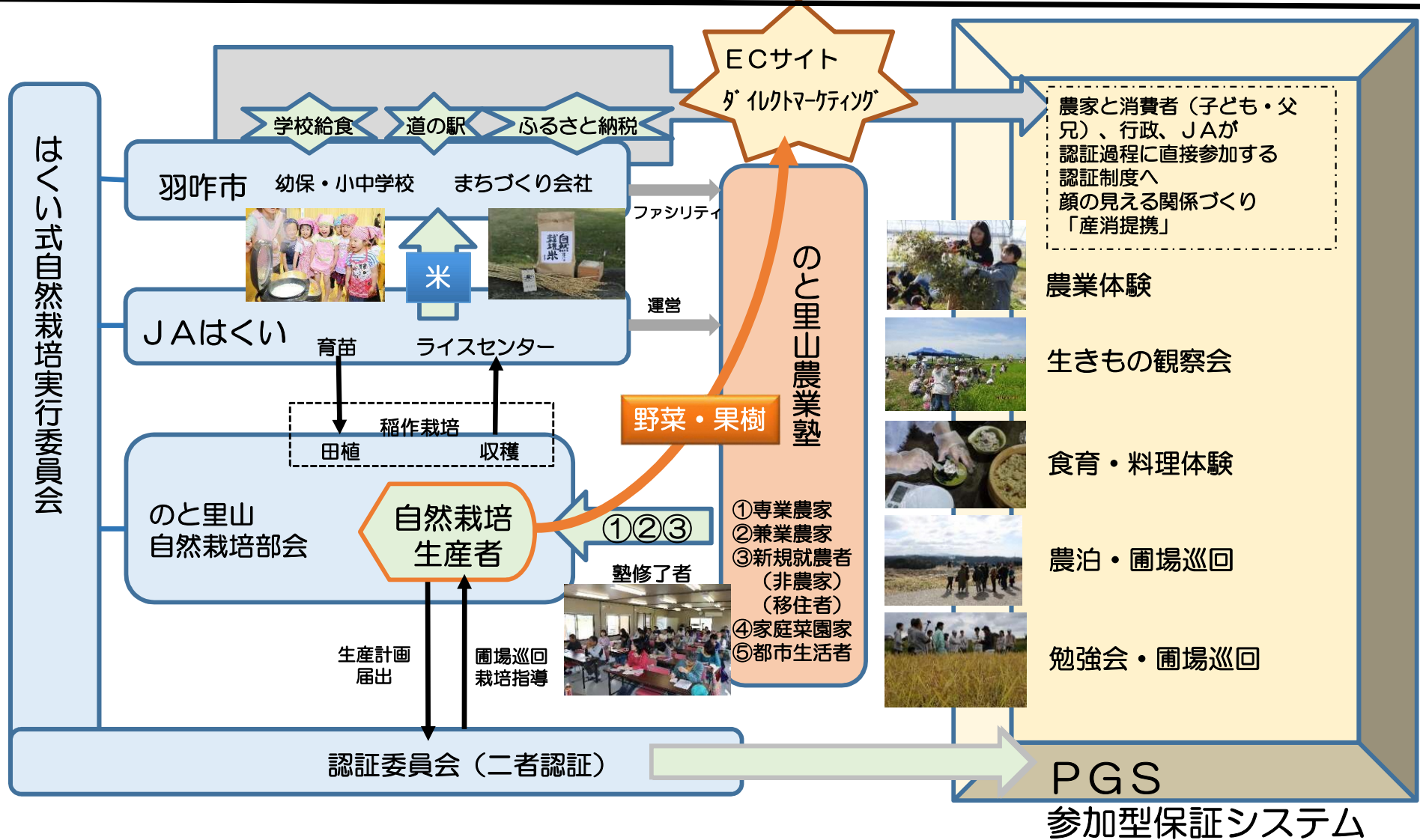
出所)論文『有機農業経営のジレンマ:生産者と消費者のつながり方』弘前大学 黄 孝春(2020.8.28)

スキーム図





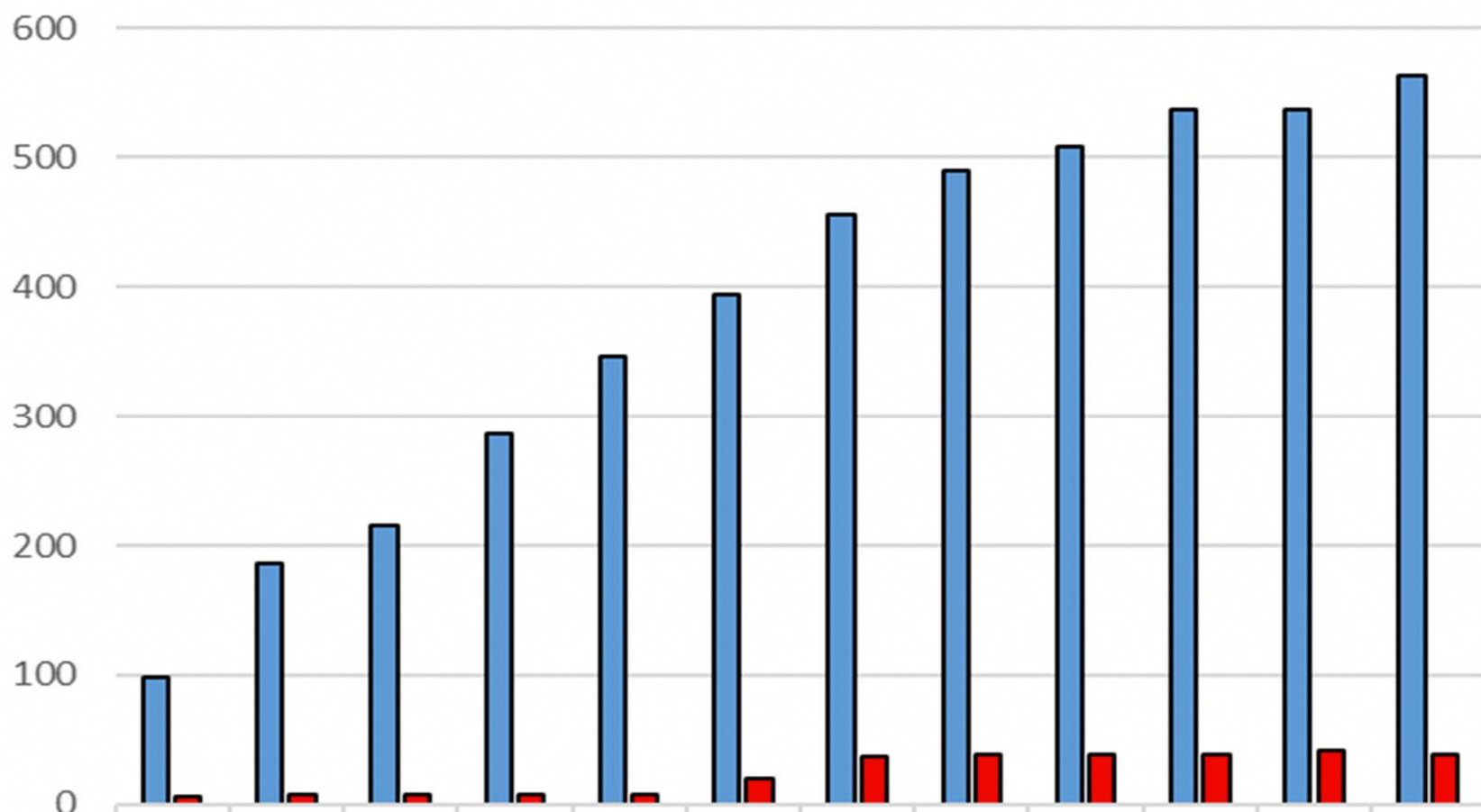
# はくいの自然栽培の特徴を活かした地域の枠組み



## 認証制度の比較表

		有機JAS認証制度	GLOBAL G.A.P	PGS(参加型有機保証制度)
認証機関		農林水産大臣に登録された第三者機関である「登録認証機関」	GLOBAL G.A.Pの認証機関	IFOAM PGS正式会員の地域PGSグループ
認証を受ける対象		農家単位	農家単位	PGSグループ単位(複数の農家が含まれる)
認証形態		国が認証機関を登録・認定し、認証機関が生産行程管理により管理される圃場を認証する(その圃場で栽培された生産物は生産行程管理者が有機として格付けする)	GAP認証とは、農業者が実施するGAPの取組を第三者が審査し証明する民間の認証制度です。確認は、GAP認証の運営主体が策定した基準書に基づき行われ、運営主体が定める基準を満たしていた場合に認証されます。	IFOAMがPGS実践グループを認定し、グループがPGS活動を通して生産者とその管理する圃場及びその栽培した生産物を確認して保証する
栽培基準		日本農林規格(JAS法)により規定される「有機農産物の日本農林規格と有機畜産物の日本農林規格」等の有機JAS規格		独自基準を制定。ただし、有機JAS規格以上の水準であること
生産物への「有機農産物」等の直接表示		できる	できない	できない
罰則規定		JAS法による	自主基準	自主基準
費用	入会金	50,000円	100,000円	約11,000円
	年会費	120,000円	200,000円	約13,000円

# 塾生数と生産者数の推移

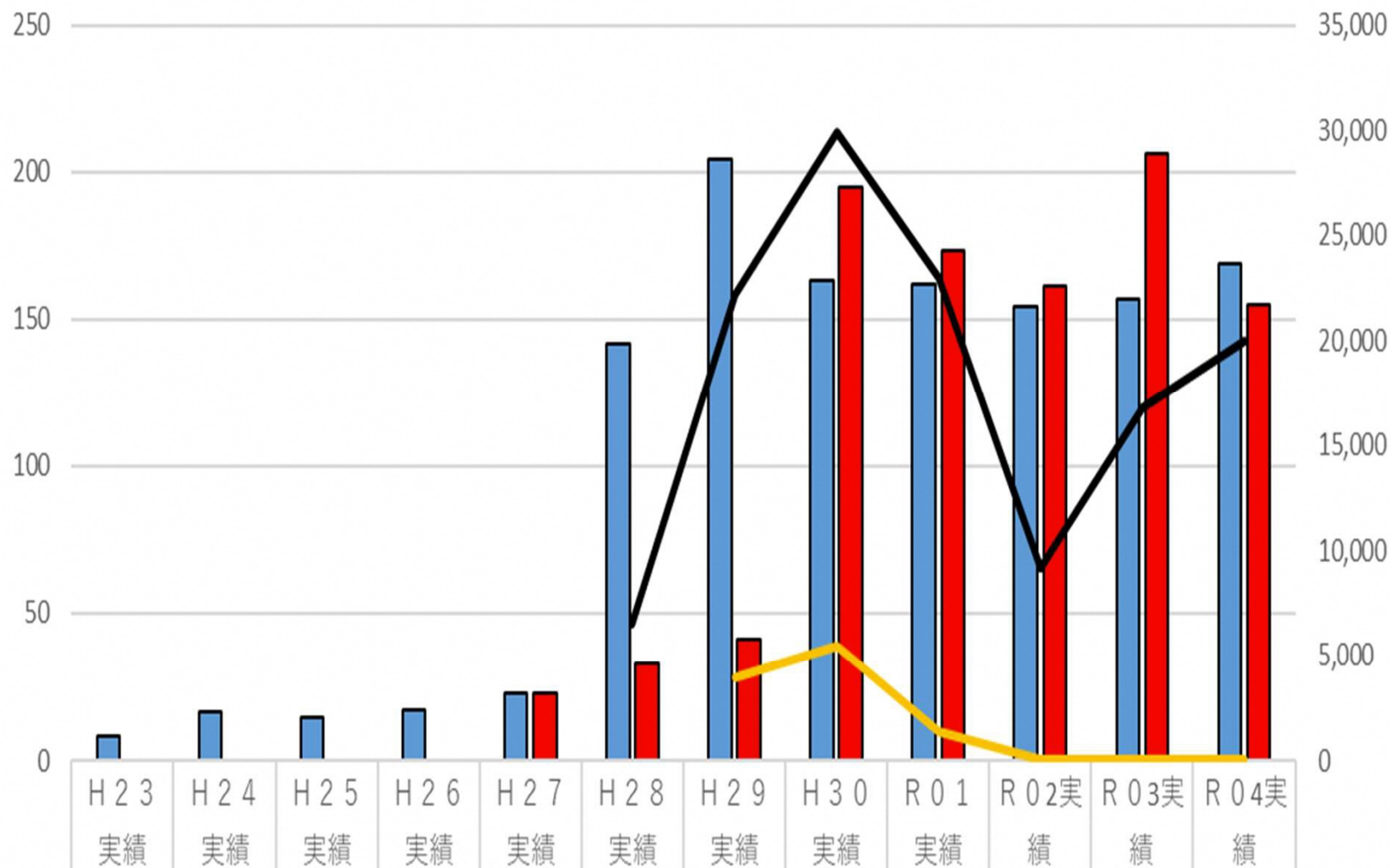


	H 2 3 実 績	H 2 4 実 績	H 2 5 実 績	H 2 6 実 績	H 2 7 実 績	H 2 8 実 績	H 2 9 実 績	H 3 0 実 績	R 0 1 実 績	R 0 2 実 績	R 0 3 実 績	R 0 4 実 績
■ 塾生数 (累積数)	98	186	216	286	346	394	455	490	508	538	538	564
■ 生産者数	6	7	7	7	8	19	37	38	38	38	41	38

■ 塾生数 (累積数)      ■ 生産者数

# 農地面積と販売高の推移

販売高 (千円)



農地面積 (千㎡) 自然栽培米	8	17	14	17	23	142	204	163	162	154	157	169
農地面積 (千㎡) 自然栽培野菜					23	33	41	195	174	161	206	155
販売高 (千円) 自然栽培米						6,513	22,160	29,883	23,005	9,174	16,810	19,970
販売高 (千円) 自然栽培野菜							3,921	5,433	1,362	0	0	0

# 課題

- ・「自然栽培」に固執しすぎるあまり、地域ブランド化に必要な地域消費者からの支持が受けにくくなっており、持続的な販売基盤が確立できていない。
- ・満足度の低い移住者がいる。  
住める賃貸空き家が少ない。
- ・農家の自立と市・JAのサポートとのバランスの取り方が難しい。
- ・生産ロット、品質に課題あり。

# はくいの取り組み事例（企業と連携）

- 自然栽培米ぬかを地元の福祉施設で圧搾機を使い米油にする



- 米油を原料に米ぬか美容オイルを製造販売 全国のロフトや東急ハンズ

- リモファムというソフトを使い、畝の長さに応じて年間契約を結ぶ



- どこにいても、はくいの自然栽培の畑を一部持てる楽しさを共有

- 自然栽培レトルトカレーの製造・販売、自然栽培玄米パックご飯、おかゆの製造・販売

- 羽咋市内に自然栽培米粉ピザ屋のオープン

# SDGsの定義と「はくいの地域活動」

◇SDGs(持続可能な開発目標)とは

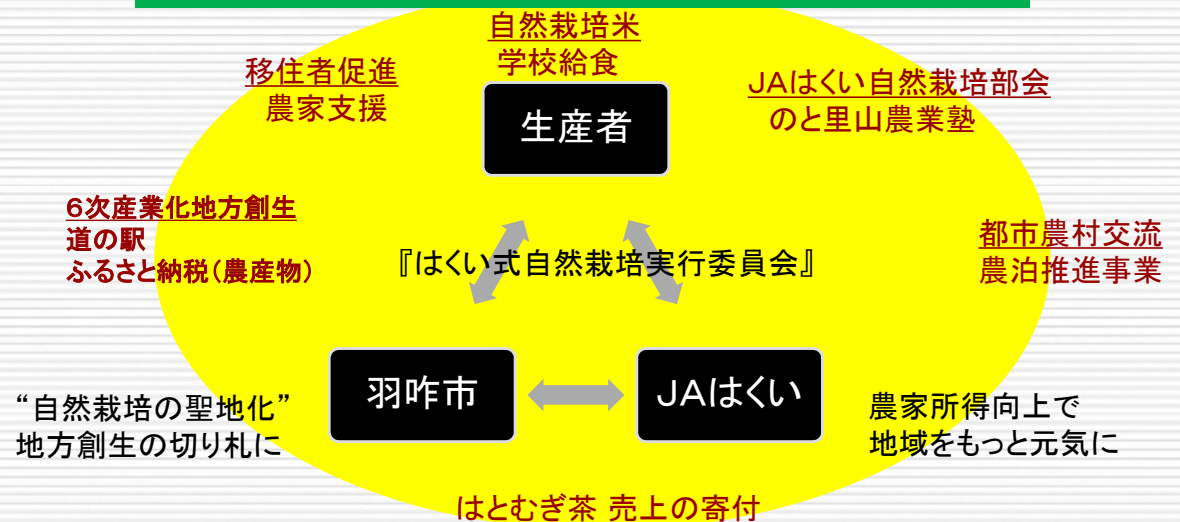
住民、事業者、行政職員など、地域内外の様々なステークホルダーが**自分の立場・領域を超えて**、ともに幸せな地域の未来の姿を描き、その実現へ向けて、みんなで協働して取り組むチャレンジ

『実践 地方創生×SDGs  
持続可能な地域のつくり方』 笈 裕介 著  
英治出版(株)

◇『はくい式自然栽培実行委員会』は

**SDGs** 地域のチャレンジそのもの

未来の子どもたちに豊かな食と環境をつないでいく



# 一つ星店 地産地消充実

羽咋の「夢喰庵」4月の移転改装契機に



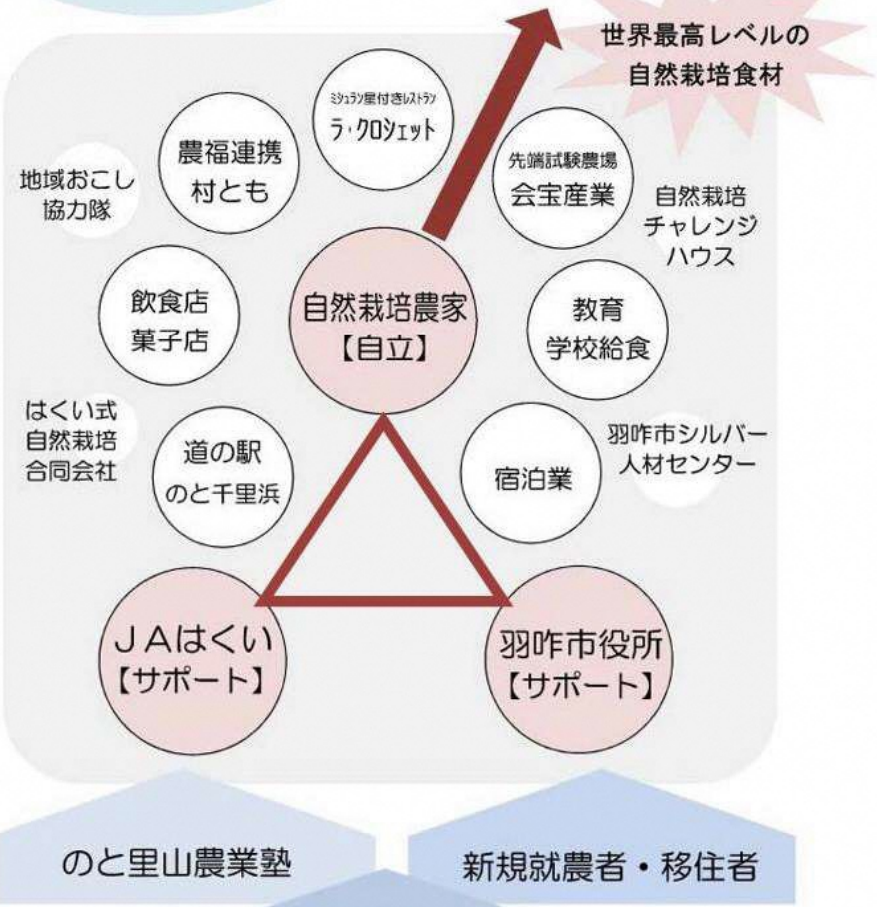
## 自然栽培普及の一助に

羽咋市羽咋町の「一つ星店」が、4月、移転改装を完了し、新たに「夢喰庵」として営業を開始した。この改装の契機となったのは、自然栽培の普及に貢献するためである。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。

「一つ星店」は、地元産品の消費を促進し、自然栽培の普及に貢献することを目的として、改装を行った。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。



サポーター



## 自然栽培 羽咋に根付け

新就農者の増加に伴い、自然栽培の産品が羽咋市に根付いてきた。地元産品の消費を促進し、自然栽培の普及に貢献することを目的として、改装を行った。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。



## 自然栽培 移住者4倍に

羽咋で今年度20人、東京から初の単身女性、水野さんも挑戦。自然栽培の産品が羽咋市に根付いてきた。地元産品の消費を促進し、自然栽培の普及に貢献することを目的として、改装を行った。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。



## 農福連携で自然栽培

羽咋市で自然栽培の産品が根付いてきた。地元産品の消費を促進し、自然栽培の普及に貢献することを目的として、改装を行った。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。



## 自然栽培 役割を具体化

羽咋市、JA、生産者が調印。農業の6次産業化に関する基本合意書調印式。自然栽培の産品が根付いてきた。地元産品の消費を促進し、自然栽培の普及に貢献することを目的として、改装を行った。改装後の店舗は、自然栽培の産品を中心に扱うことになり、地元産品の消費を促進する役割を果たすことになった。

### 羽咋に先端試験農場

会産産業 IOT活用のハウス  
来年度建設

自然栽培推進市が誘致



### 自然栽培米「おいしい」

羽咋で一斉給食

三年前は夢物語だった『自然栽培の聖地化』いま、現実・・・